

中学校第 3 学年 国語科学習指導案

単元名 2つの文章を読み比べ、多面的にものごとを考えよう

教材名 「黄金の扇風機」(田中真知)、「サハラ砂漠の茶会」(千住博)(東京書籍 中学校 3 年)

1 単元について

(1) 生徒観

本学級の生徒は、教材「百科事典少女」「風の唄」を使った文学的文章の学習において、観点を決めて比べ読みをし、作品を批評する学習をしている。また、説明的文章である 2 年次教材「食の世界遺産―鯉節」と「絶滅の意味」の比べ読みでは、段落の役割と説得力ある論の展開について学習した。その後、解説や主張など段落の役割を意識して、「佐賀県の特産品の秘密」をテーマに実際に説明文を書く学習をしている。

4 月に行われた全国学力・学習状況調査では、全ての設問において無回答率は全国、県を下回り、国語の学習には意欲的に取り組んでいるが、文章の要旨を捉える設問において、正答率が低かった。文章の主題や要旨を読み取る力を付けるために、比べ読みをすることで、共通点や相違点を明らかにする学習に取り組んでいるところである。

(2) 教材観

本単元では、2つの評論を読み比べてものごとを多面的に捉え、自分の考えを持つことを目標としている。多面的にものごとを捉える力を身に付けることは、生徒の生き方や考え方にも大きく影響を及ぼすと考える。本教材「黄金の扇風機」は、世界を歩き回った作家の田中真知が、柔軟なものの見方の必要性を説いたものである。また、「サハラ砂漠の茶会」は、日本画家の千住博が独自の芸術観を綴ったものである。職業が異なるそれぞれの専門的立場から「美しさ」についての論を展開している。

「美しさ」は、抽象的概念であるが、この二人の主張に共通していることは、グローバルな世界に生きる私たちにとって、異なる文化、価値観を受け止める際に大切なことを述べている点である。教科書掲載の出典図書の中から、複数の異なる例を提示することで、多面的にものごとを捉えることの楽しさや意義を発見できる単元である。

(3) 指導観

本単元の学習課題を「現代における美しいものの受容について、多面的にものごとを考えるために、作家と日本画家によって書かれた文章を読み比べ、『現代社会で本当に美しいものを見付ける方法』を書く」と設定した。

そこで、本単元では、二人の文章の中から主張を明らかにするために、知識構成型ジグソー法を用いて、生徒が主体的に文章を読み取り、自らの読みを他と交流することで、理解を深めさせ、多面的にものごとを捉えられるようにする。まず、「黄金の扇風機」「サハラ砂漠の茶会」より、筆者が主張したいことを読み取らせ、「現代社会で本当に美しいものを見付ける方法」を書かせる。さらに、4人グループで、田中氏の著書より「消えたお歯黒」「お皿と首輪」の 2 編、千住氏の著書より「インターネットと芸術」「世界の中心」の 2 編の計 4 つの文章から一人 1 編を選ばせ、それぞれの文章から分かる筆者の主張をまとめさせる。次に、同じ文章を選んだ生徒同士で、担当した文章に書かれている現代社会の問題点や美しいものの受け止め方を話し合わせ、考えを深めさせる。そして、異なる 4 編の文章を読んだ者同士が主張を持ち寄り、田中氏と千住氏の主張を明らかにさせる。グループごとに整理した内容を聞き、最後にもう一度、「現代社会で本当に美しいものを見付ける方法」を書かせ、自分の考えを深めさせたい。

2 単元の目標

現代における文化や価値観の受け止め方について、2つの文章から主張を読み取って整理し、自分の考えを持つことができる。(読むことエ)

3 単元の言語活動

- 文章を分担し、知識構成型ジグソー法を用いて、主張を読み取る。
- 現代における文化や価値観の受け止め方について、知的構成型ジグソー法で深めた主張を基に、「現代社会で本当に美しいものを見付ける方法」を書く。

4 単元の評価基準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
① 現在の自分の異文化に対する価値観を振り返り、筆者の主張から考えを広げようとしている。 ② 知的構成型ジグソー法に基づき、担当した文章のエキスパート活動に参加し、積極的に話し合おうとしている。	① 筆者の本文での主張について、それぞれの相違点を整理している。 ② 知的構成型ジグソー法で担当した文章について、筆者の主張を整理している。 ③ 現代における文化や価値観の受け止め方について、筆者の主張を基に自分の考えを持っている。	① 文章中の例や筆者の主張を読み取り、現代社会の問題点と本当に美しいものを見付けるための方法を書いている。

5 指導と評価の計画（全5時間）

次	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価基準〔 〕 評価方法【 】
一	1	1 「多面的」に考えるとはどういうことかを知る。 2 学習課題、学習計画を知る。 [学習課題] 現代における美しいものの受容について、多面的にものごとを考えるために、作家と日本画家によって書かれた文章を読み比べ、「現代社会で本当に美しいものを見付ける方法」を書く。	○新聞記事を用いて、今後の社会生活においても「多面的」に考えることの大切さに気付かせる。	【関・意・態①】 「多面的に考える」ことのイメージを持とうとしている。 【ワーク①】
		3 「お歯黒」の写真を見て、「美しさ」の捉え方のイメージを持つ。	○同じ日本でも時代によって美しさの価値観が異なったことを伝え、学習の動機づけを図る。	【関・意・態①】 自国の文化の変遷を知り、現代との美意識の変化に興味を持とうとしている。 【ワーク②③】

一	2	4 教材「黄金の扇風機」を読む。 5 教材「サハラ砂漠の茶会」を読む。 6 2つの教材を読んで考えた「現代社会で本当に美しいものを見付ける方法」を書く。 7 次時に担当する文章を決めて読む。	○例と筆者の主張(ものごとを柔軟性を持って見ることの大切さ)を整理させる。 ○例と筆者の主張(芸術は同じ人間であることを共有するツール)を整理させる。 ○現代社会の問題点と、これまでの姿勢を重ね、どのように行動していくかを書かせる。 ○担当する「部品」は、内容をイメージした写真を参考に話合いで決めさせる。	【ワーク④】 【ワーク⑤】 【読③】【言①】 身近な例を取り入れ、自分の経験に基づいて、考えを書いている。 【ワーク⑥】 【読①】 文章から読み取れる現代社会の問題点と筆者の主張を書いている。 【ワーク⑦】
二	3 本時	8 4つの文章を、知的構成型ジグソー法を用いて読み、自分の考えを深める。 (1) 担当する「部品」について、筆者の主張を読み取る。 (2) 同じ「部品」を選んだ生徒同士で話し合い、考えを深める。 (3) 元の4人に戻り、③の話合いを通して出た意見を発表し合い、考えを深める。	○知的構成型ジグソー法の説明をする。(一人1つ「部品＝文章」を担当し、同じ文章を担当する生徒同士で話し合いを深めた後、グループに持ち帰って討議させる。) ○学習のゴールが、現代社会の問題点を踏まえて、自分の生き方について振り返る学習であることを再確認させる。 ○文章を読み、現代社会の問題点と筆者の主張をまとめさせる。 ○同じ文章を担当した生徒同士で集まり、考えを聞き合い、補足修正をさせる。 ○他の文章を担当した生徒の意見を聞くことで、自分の考えを深めさせる。話合いの内容は、記録用紙に記録させる。	【読①】 文章から読み取れる現代社会の問題点と筆者の主張を書いている。 【ワーク⑦】 【関・意・態②】 担当した文章のエキスパート活動に参加し、積極的に話し合おうとしている。 【観察】 【読②】 互いに意見を述べあい、筆者の主張を基に自分の考えを整理している。

		(4) 各グループの考えを聞く。	○記録用紙を基に、気付いた点、新たな視点についての感想を述べさせる。	【ワーク⑧】
三	4	9 もう一度「現代社会で本当に美しいものを見付ける方法」を考えるために、旅行添乗員になりきり、「海外で美しいものを見付けるための極意」を書く。	○前時の活動を振り返り、自分のこれまでの立場や視点をについて書かせる。	【読③】【言①】 現代社会の問題点と自分のこれまでのものの見方を振り返り、考えを深めている。 【ワーク⑨】
	5	10 友達を書いた文章を読み、コメントを書く。 11 単元全体を振り返り、この単元で身に付けた力について整理する。	○友達作品から、どのような見方を取り入れたのかを読み取らせ、記号（A, B, ア, イ）を書き入れて返信させる。 ○生徒の振り返りから、今後に生かせるような視点、表現を紹介する。	【関・意・態①】 学習後の自分の異文化に対する価値観を振り返り、筆者の主張から考えを広げようとしている。 【ワーク⑩】 【講評シート】

6 本時の指導計画（3／5時）

(1) 目標

現代社会における異文化の受容について、筆者の主張を読み取る。
友達の考えを聞くことで、自分のこれまでの姿勢や視点を振り返る。

(2) 本時の評価規準

- ア 田中氏の文章から「美しさは時代や地域によって異なり、偏見が伝統をこわすことがある。」ことを読み取っている。また、千住氏の文章から「よいものに対して感じる感受性はどの国も同じであるが、美しいものは実際に目で見てこそ価値を見いだせるものである」ことを読み取り、書いている。〔読む能力①〕
- イ 二人の文章の相違点や友達の考えを聞き、自分の考えを深めている。〔読む能力②〕
- ウ 知的構成型ジグソー法に基づき、担当した文章のエキスパート活動に参加し、積極的に話し合おうとしている。〔国語への関心・意欲・態度②〕

(3) 展開

	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準〔 〕 評価方法【 〇 】 C の状況の生徒への手立て
導入	1 前時の学習を振り返る。	ワークシート	○2つの文章に書かれた主張を復習し、これから多様な社会を生きる自分たちが、どのように異文化を受け入れたらよいかを考える	

導 入	2 本時の目標と展開を確認し、学習の見通しを立てる。		ことを確認させる。	
展 開	本時のめあて 続編を読んで、「異文化理解」を多面的に考えよう。 3 知的構成型ジグソー法で、筆者の主張を読み深める。 (1) 4人で文章を分担する。 (2) 担当する「部品」について、筆者の主張を読み取る。 (3) 同じ「部品」を選んだ生徒同士で話し合い、考えを深める。 (4) 元の4人に戻り、③の話し合いを通して出た意見を発表し合い、考えを深める。 (5) 各グループの報告を聞く。	ワークシート	○知的構成型ジグソー法の進め方について説明する。 ○田中氏の文章2編, 千住氏の文章2編から担当する「部品」を確認させる。 ○文章を読み, 現代社会の問題点と筆者の主張をまとめさせる。 ○同じ文章を担当した生徒同士で集まり, 考えを聞き合い, 補足修正をさせる。 ○話し合いの内容を記録用紙に整理させる。 ○記録用紙を基に, 気付きや感想を発表させる。より多くの視点や意見に触れるようにさせる。	【読①】 文章から読み取れる現代社会の問題点と筆者の主張を書いている。 【ワーク⑦】 読み取れない生徒には、ヒントカードを用いて一問一答式で記入させる。 【関・意・態②】 担当した文章のエキスパート活動に参加し、積極的に話し合おうとしている。 【観察】 【読②】 互いに意見を述べ合い、筆者の主張を基に考えを深めている。 【ワーク⑧】 考えが深まらない生徒には、自分と他の人との考えの違いに着目させる。

ま と め	4 本時の振り返りと次時の学習内容を確認する。	学習計画表	○同じ文章を担当した人が集まって話し合ったときと、異なる文章を担当した4人で集まって話し合ったときに生まれた意見で、印象に残ったものに、それぞれ注目させる。	
-------------	-------------------------	-------	--	--